

第18回 茨城県少子化対策審議会 開催結果について

- 1 日時 令和8年2月9日（月）14：00～16：00
- 2 場所 茨城県開発公社4階大会議室
- 3 出席者 審議会委員14名（欠席2名） ※別添名簿参照
事務局（県）長島子ども政策局長、楊箒少子化対策課長
菊地子ども未来課長、平根青少年課長ほか

4 結果

番号	事項	結果
議事(1)	・少子化対策をめぐる最近の動向について	・原案どおり承認。
議事(2)	・「茨城県次世代育成プラン」令和6年度実施評価について	・審議会資料について事務局より説明後、意見発言があった。
議事(3)	・茨城県こども計画の目標指標見直しについて	

5 委員の発言要旨（主なもの）

議事（1）少子化対策をめぐる最近の動向について

- 妊娠、出産、子育てにかかる制度が十分に知られておらず、支援に繋がらないことがある。様々な機会を捉えて個々の事案を把握し、そこから情報を得て政策につなげていくことが重要である。
- 0～2歳児の保育料は家庭にとって重い負担となっており、県でも国に保育料の無償化を要望している一方で、一定の年齢まで自宅で子育てをしている保護者に対する支援も重要である。保護者が子育てをする喜びがあって初めて、妊娠・出産に希望を持てるような、少子化対策の実現につながるのではないかと。
- 現在、スマートフォン等の普及により、かなり早い時期から子どもが様々な情報を目にすることがある。望まない妊娠を防ぐためにも、男女問わず、性教育は小学校高学年ごろから必要なのではないかと。
- 保育所に子どもを預けることができず、仕事に復帰できない女性が多くいるということを知っており、資料にある待機児童数とのギャップを感じる。待機児童数が多いタイミングもあり、そこをどう改善するかを検討も重要だと思ふ。

- 自分は出産後もテレワークなどの制度を利用して働くことを希望していたが、出産後に、会社からテレワークができない旨を伝えられ、退職したことがある。妊娠、出産、子育てについては、企業の理解が非常に大切であると実感した。

議事（２）「茨城県次世代育成プラン」令和６年度実施評価について

- 産後ケアに関しては、市町村によって申請方法に大きな差があるため、好事例を共有してもらった方が良いのではないか。また、今後はニーズの増加も見込まれるため、県として質の管理を行うことも重要となってくる。
- 保育所に関して、保育標準時間が 11 時間というのは、長すぎると思う。保育標準時間は 8 時間、それ以上については延長保育などに変えていかないと、少子化は改善されないのではないか。

議事（３）茨城県こども計画の目標指標の見直しについて

- 外国籍の子どもに対しては、現場で先生が工夫を凝らして支援しているところ。ただ、保護者が仕事を見つけられない等により認定取り消しになってしまうケースがある。共生社会の実現のためには、どのような問題点があるかを洗い出し、ピンポイントでの対応が必要となるのではないか。
- 里親とうまくいかず、児童養護施設へ戻るケースもあると聞いている。そうならないための里親への支援は、さらに手厚くしていかなければならないと感じている。
- 校内フリースクールの設置割合 100%は、かなりチャレンジングな目標で意気込みが感じられる。数だけでなく、スクールカウンセラーやソーシャルワークの専門家等も含めて、ともに子どもが安心できる場づくりを行ってほしい。